



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 加藤 賢三
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団環境技術部
 環境活動推進チーム
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

平成17年度定期総会の開催

今年の事業は環境学習が目玉です！

5月28日(土) 船橋女性センターにて、「環境パートナーシップちば」の平成17年度定期総会が開催されました。

縣和子氏の司会で始められ、環境パートナーシップちば代表である加藤賢三氏より挨拶の後、来賓千葉県環境生活部環境再生推進室長石橋芳継氏、(財)千葉県環境財団環境管理グループ、千葉県温暖化防止活動推進センター事務局長山口幸一氏よりご挨拶をいただきました。その後、議長に小関光二氏、書記に荒尾繁志氏が選出されました。平成16年度事業を中岡丈恵氏、会計を桑波田和子氏、会計監査が深尾秀次氏より報告の後、平成17年度事業計画(案) 予算(案) 役員改選(案)の提案があり、質疑応答を経て全てが承認されました。総会后、会員の情報交換の目的で環境カウンセラー小関光二氏と当会広報部・広田由紀江氏による「環境学習の実践」の発表があり、参考例として参加者の関心を集めました。この内容については次頁に掲載しています。

<環境パートナーシップちば>は、来年10周年を迎えます。現在の加藤代表は3代目にあたります。この定期総会でも、初代代表の鈴木優子氏より環境パートナーシップちば発足の経緯などの説明があり会のあり方についての議論が交わされました。

発足の経緯は、第1回環境シンポジウム千葉会議に集まった人たちが、1996年12月に環境ボランティアのダイレクトリーを作ろうと動き始め、その結果

120以上の団体の協力を得ることができたのが、きっかけのことでした。現在も当会アドバイザーとして活躍の御宿の永島輝代氏がパワーの中心となり、「ネットワークを作ろう」「会を立ち上げよう」と発起人となって会則・呼びかけ文を、ダイレクトリーで協力してくれた団体すべてに送り、翌97年6月29日に設立となった。市民が自発的に立ち上げた会との説明でした。

当時、千葉県では市民団体を育てる「環境パートナーシップ推進事業」があり、環境パートナーシップちば誕生の後押しになったとの、補足を同じ発足メンバーの深尾氏からいただきました。平成15年度からは、今までの<思い>を守りながら自立にむけて、自ら提案する活動を行ってきました。今年度は、京都議定書の批准以来の記念すべき「地球温暖化防止推進」の年に当たり、「資源循環型社会の実現」に向けての活動に加えて、昨年度から続いている、「印旛沼をきれいにする活動」の推進事業を計画しています。行政と対等な立場の市民団体を目指してここで、改めてもう一度パートナーシップを見つめなおし、それが環境学習と重なっていかればより良い方向性となっていくのではないのでしょうか。来年は10周年を迎えるにあたり、今年も活動を活発に進めていきます。会員の皆様はもちろんのこと、この<だより>をご覧の貴方も、ぜひ環境パートナーシップの活動にご参加ください！(広報部 広田)

環境学習は気合だぁ！？

なぜ今、環境学習なのかを、身近な問題から説明するときには、「ストップエイズ」の話をします。エイズはHIVウイルスに起因する感染症ですから、そのもっとも有効な防止はワクチンの接種です。しかし、有効なワクチンはまだ実用にはなっていません。その治療薬は開発されていますが、副作用が強く、高価な薬を一生飲み続けなければなりません。そこで、もっとも有効な防止策は「エイズについて知ること」なのです。しかも、これは性感染症なので、学習効果による本人

代表 加藤 賢三

の自覚によって、防止可能なのです。

環境問題の解決のためにも、この学習が重要であることは自明です。できるだけ多くの方々に、環境について、理解していただくことが必要であり、このことが、持続可能な社会の実現を可能にするため、必須なことだろうと思います。そこで、気合を入れて、環境学習の輪を広げてゆきたいと思います。そこで、「環境学習は気合だぁ！？」なのです。

いっぱい楽しい環境学習を

環境パートナーシップちばは、県内の数少ない全県的な“つなぎ屋さん・場づくり屋さん”として役割を果たしてきました。それぞれに自分の事で忙しく、ともすると他との協働をつい忘れがちなか中で大切な役割を担ってきたともいえます。

まるでトイレのない家のようになってしまった日本社会、ここ千葉の現実を見るにつけ、協働こそ解決への組織的な手立てとなるだけに、環境パートナーシップの精神とその具体的な行動は、今度一層重要になることでしょう。孤立奮闘では何一つ解決できない時代だからです。しかし、それにしてもその力がはなはだ弱い。どうしたものか。でもひとり環境パートナーシップちばの問題だけではなさそうです。

事態が深刻な割には、政府はザル法をそのままにし、

副代表 高橋 晴雄

行政は、財政削減の手段として市民参加を求めがちであり、企業は生産 消費 廃棄の事に責任を持つ一貫性に乏しく、市民は、目の前に見えなければ当座よしとする精神状況からなかなか抜け出せないのが一般的姿ではないか。

温暖化にせよ、自然破壊にせよ、産廃にせよ、黙認は無責任（次世代からみれば犯罪者）のそしりを免れないが、結局自分にも「泣かず、さわがず、湯でカエル（蛙）」になる運命が待っているといえましょう（これは自分に言い聞かせの言葉です）。戦前責任として環境学習は時代の要請です。環境学習はいつも楽しそうです。参加は学び 学びは参加 自発的参加（参画）は楽しい、この繰り返しの中から何が生まれるか。どうぞよろしく。

平成17年度事業計画

今年度は、京都議定書の批准以来の記念すべき「地球温暖化防止推進」の年に当たり、このプロジェクトは、「資源循環型社会の実現に向けての活動」に加えて、

大きな目玉として、さまざまな主体と一緒に推進していく予定です。

<p>A：「印旛沼をきれいにする活動」</p> <p>1) 親子の環境学習プログラムの作成（ベイエフエム基金）</p> <p>2) 「川の学校」の開催（千葉県環境再生基金）</p> <p>3) 「花見川から印旛沼までのエコウオーキング」 ～花島橋から東京湾まで～の実施 (印旛沼環境基金予定)</p>	<p>C：継続的な事業</p> <p>1) 学習会</p> <p>2) エコサロンの開催（年6回開催）</p> <p>3) 広報誌、「だより」（年6回発行）</p> <p>4) 環境シンポジウム、里山シンポジウムなどへの参画、エコメッセちばへの協力</p>
<p>B：環境学習</p> <p>1) 印旛沼事業を中心とした体験学習の推進</p> <p>2) エコマインド養成講座の協力推進等</p>	<p>D：地域活動・その他</p> <p>1) 当会の支部活動の輪の拡大。 (船橋、千葉、浦安、松戸、八千代等地域の環境フェアに参画)</p> <p>2) 来年度の環境パートナーシップちばの10周年記念事業の準備。</p>

新役員紹介

代 表	加藤 賢三	事業部部长	中岡 丈恵	アドバイザー	佐久間隆義
副 代 表	高橋 晴雄	事業部副部长	荒尾 繁志	アドバイザー	鈴木 優子
書 記	千葉 智雄	広報部部长	広田由紀江	アドバイザー	永島 輝代
会 計	桑波田和子	広報部副部长	平山 明彦	アドバイザー	平松 南
会 計	橋本 公江			アドバイザー	横山 清美
会 計 監 査	大西 優子			アドバイザー	大西 優子
会 計 監 査	小関 光二			アドバイザー	深尾 秀次

～活動事例紹介～

みんなで野菜をつくって食事をし、 自然のめぐみに感謝して 環境を守っていこう

小関 光二氏

小関氏は平成15年度より、食育と環境の指定校となっている山武西小学校の総合学習の時間において「校庭内の畑を利用し、10種類程度の野菜を、無農薬無化学肥料でつくり、収穫、調理、昼食会を行う」というプログラムを展開しています。退職後、知人の教員に環境学習計画(案)を提案したところ、全面的に受け入れられたのがきっかけでした。対象学年として、最初の15年度は4・5年生、16・17年度は5・6年生で、毎年テーマが決めます。毎回2校時～半日の時間をかけ4月～7月までの間に6回(17年度は5回)ほど行います。この学習のねらいは、以下の通りです。

野菜作りを通じて、人間も自然生態系の一員であることを理解し、環境保全の大切さを身につける

みんなで力をあわせて、野菜づくり、収穫、食事作りまで行うことを通じ、「協力、努力、喜びを味わい、社会性を身につける

作っている野菜は、じゃがいもやにんじん、たまねぎ、なす、すいかなどです。メニューは決められていて「肉じゃが」「味噌汁」「しおもみ」「おひたし」「デザート」「ごはん」など、一般的なものばかり。みんな、大昼食会に向けて草取りや虫取り、間引きなどの作業をしていきます。その中で、なぜ「体験学習」する



の? なぜ「みんな」をするの? 「自然のめぐみ」ってなに? 「感謝する」ってどういうことなの? 「環境を守る」ってなぜなの?と、子どもたちに問いかけていきます。子どもたちは一生懸命考え、やがて答えをみつけます。体験からつながる、共感することで、環境を守っていこうという気持ちが自然と子どもの中に湧き上がってくる。だんだん大きく育つ野菜の世話をし、それをおいしく味わうことで知らないうちにいろいろなことが理解できるようになります。「学校内に広い畑がある」のは県内でも限られることでしょう。まさに地域にあわせたプログラムといえるのではないのでしょうか。

行政とのパートナーシップによる環境学習をめざして

広田由紀江氏

浦安市は環境基本計画策定と時期をあわせ、環境学習に力を入れています。広田氏は、「環境学習にもっと力を入れたい」という浦安市の要請により、平成16年8月より非常勤勤務されています。小・中学校からの総合学習の出前講座の講師や、今年2～3月の環境保全課主催地球温暖化問題をテーマにした連続講座の企画・運営を担当することに。今年度からは、教育委員会や学務課と連携の方針も出され、公民館と環境学習講座を協同する際のプログラム担当など、「だんだん動きが出てきた」とのこと。現在小学校、中学校、公民館、そのほかにも児童館まつりやPTAからの依頼などがあります。そのほかにも、勤務とは別に市民活動として行ってきたビナスプラザ(浦安市再資源化啓発施設)の「子ども環境講座」や「牛乳パックで紙すき体験教室」でも「環境学習」としての位置づけを図っています。

「私は今まで、毎月紙すき体験教室を行う中で“紙すきは、こんなにエネルギーを使っていいのだろうか?”といつも疑問に思っていました。そして、メンバーとやり方を少しずつ変えて“リサイクル体験と同時にエネルギーも考える”をテーマに“環境学習としての紙すき”を考えた結果、出前メニューとしてよく声をかけてもらえるようになりました。」それは、ビナスプラザやごみゼロ課の方々の協力を得たことが大きな要因だったそうです。

「その他にも環境シンポジウム千葉会議の環境教育分科会の中で、今年《浦安プロジェクト》と銘打った“浦安型の環境学習提案”を計画しています。豪華スタッフの協力をいただき、まだ提案の段階ですが、今後形にしていきます。このように勉強させていただきながら、発信する場もたくさん得ています。」この先の行政とのパートナーシップとしての展開に期待しましょう。

第2回里山シンポジウム開催

里山シンポジウム2005年テーマ

“里山と子ども”

里山シンポジウム実行委員会 桑波田 和子

平成15年の春、千葉県は里山条例を施行し、今年には「第2回ちば里山フェスティバル」の一環として「第2回里山シンポジウム」を開催しました。

今回のシンポジウムは、14分科会が4月から5月まで五月雨式に開催し、5月21日(土)中央学院大学(我孫子市)では、午前中、6分科会を行い、午後1時30分からは、全体会を開催しました。

今回の特徴は、分科会が10から14分科会に増えたこと、各分科会会場・開催日をバラバラにしたこと、我孫子市など市町村や大学の協力をいただいたことです。また分科会の一環として、親子野外体験・宿泊企画などオプショナルも開催しました。

全体会での金親博栄実行委員長長の挨拶の中に「生き生きとした地域づくりに欠かせない環境作りのキープポイントは緑化にあります。各々の地域の活性化はその地域の景観に現れます。子どもの戯れる風景、手入れされた里山の再生は、健全な子どもを育む場所として、改めてその子を育てる親たちの認識を深める必要があると考えます。この観点から、今年のサブテーマは、「里山と子ども」としました。」とありますが、私たちが「里山に託す未来」としての方向性を確認した一つです。

原慶太郎氏(東京情報大学教授)の基調講演「英国カントリーサイドから見たちばの里山」では、イギリスでも環境と農業をめぐるさまざまな意見の対立があり、それを乗り越えてきた歴史があること、農家と自然保護庁や地元のワイルドライフ・トラストなどのいくつものNPOが協働していることについて述べられました。「千葉の里山保全の鍵は、各地で芽生えつつある農林業を営む人々と多様な主体による自立的な取り組み



報告

みという協働と、それに対する行政の横断的かつ弾力的な関わりにある」とのお話は、印象に残りました。パネルディスカッションでは、「里山に託す私たちの未来：里山と子ども」をテーマに、大槻幸一郎氏(千葉県副知事)ご本人の里山体験、福島浩彦氏(我孫子市長)は、我孫子市子ども総合計画の中から、岡発戸ミュージアムとのかかわりについて、呉地正行氏(日本雁を保護する会会長)は、宮城県蕪栗沼での市民・農業者・行政との関わり、鈴木眞廣氏(和光保育園園長)は、里山と子どもたちとの生き生きとした活動の報告がありました。また「だってここは雨漏り保育園」の歌をご本人が歌ってくださり、会場は和やかなやさしい気持ちになりました。

我孫子市の里山紹介では、「岡発戸・都部谷津ミュージアム～四季と昆虫～」中央学院高等学校生物部の生徒さんによる、谷津の生き物(昆虫)を調査活動の報告は、すばらしく若い力に応援したくなりました。里山保全に向けて、これからも市民・行政・企業・大学のますますの協働が必要とされます。

このシンポジウムに参加し、これからの活動に新たな力を頂いた気がします。

第2回里山シンポジウムの報告など詳細については、HPをご覧ください。

<http://www.jgoose.jp/satochiba/syusaisya.htm>

エコサロン報告

去る5月18日、石井皓さんを迎え船橋市女性センターにて、エコサロンが開催されました。テーマは「共に環境教育の幅広い実現を！」です。今まで手がけてこられた騒音問題やウィスコンシン州と千葉県の環境教育の比較や市民参加についてなど、サロンならではの賑わいとなりました。次号では、環境教育・環境学習について石井さんに寄稿していただく予定です。

なお、7月のエコサロンは平山明彦氏を迎え、環境学習をテーマに開催されます。当日は、平山氏の著書である「環境の教科書」の紹介もしていただきます。多くの方のご参加をお待ちしております。

特定外来生物による被害の防止に関する法律

東京歯科大学

平山 明彦

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)が6月1日より施行されました。外来生物とは人為に限らず何らかの理由で対象とする地域や個体群の中に外部から入り込んだ個体の種を指します。「外来種」と同義語で、人為により自然分布域の外あるいは他の地域個体群から持ち込まれた種をいいます。

す。これらは在来の生物種や生態系に様々な影響を及ぼします。中には奄美・沖縄のマングース、小笠原のノヤギ、アノールトカゲのように在来種の絶滅を招くような重大な影響を与えるものもあります。このため、移入種の問題は生物多様性の保全上、最も重要な課題の一つとされ、地球レベルでの生物多様性条約の枠組みの中で対策が検討されています。国内では一部で移入種の駆除が進められ、移入種対策のためのこの法律が施行されました。この法律は、日本固有の生態系を守るためや、農業、人体の生命や健康などに被害を及ぼすおそれのある外来種を「特定外来生物」に指定し、国の許可なく輸入や移動、飼育、栽培などをすることを禁止する法律です。在来生物や私たちの生活に見すげせない影響を与えるからといって、外来種を生息する現場から簡単に排除していいのか疑問です。また排除された生物の取り扱いや排除そのものの是非をめぐって、立場の違いによる人間側の対立もしばしば生じています。こういった外来生物をめぐる問題は、私たちと自然とのかかわりかたを、考え直す良いチャンスではないでしょうか。

生態系には、生きものとしての人間が含まれているはずで、生態系は、一律に扱うべきではなく、自然生態系、農村生態系、都市生態系など、生態系の一員でもある人間の関与のしかたによって区別して考えるべきではないでしょうか。

すでに、明治以降においても、人の求めに応じて、大半の植物が外来種で占められている都市における外来種の扱いと、知床半島の外来種の扱いは同じとは言い難く、都市生態系に及ぼす外来種の被害と、知床のそれとは、一言で被害という尺度で決めるのは難しい。したがって、生態系を「自然生態系、農村生態系、都市生態系など」に区分し、それぞれについて、被害の基準を決め、広域に影響を与える動物については別途基準を設けて決めるべきと考えます。その場合の基準は、それぞれの生態系での「原風景」で、それを決めるのは、地域にかかわってきた、在来種といえる人間です。たとえば、地域で、アライグマやアメリカザリガニを「原風景」になじまないと評価すれば、駆除をします。都市生態系や河川など国土保全上改変された生態系においても、それぞれの生態系になじまない外来種の移入は避けるべきでしょう。ただ、あくまでもその基準は、都市生態系、改変生態系になじまないかで判断すべきで、自然生態系を基準に考えるべきではないと考えます。そうでありませんと、判断基準が厳しくなれば、マニアックに、ゆるくなれば意味のないほど抜け道だらけになりかねないと考えています。

環境シンポジウム2005千葉会議の開催！

もう待てない！ストップ地球温暖化 - 千葉からアクションを -

全体会日時：平成17年11月13日(日) 10時～15時

場 所：千葉大学公共研究センター西千葉地区総合校舎

基調講演「定常型社会のビジョン」 廣井 良典 氏（千葉大学公共研究センター長）

パネルディスカッション等

（詳細は次号に掲載します）

〔分科会開催〕

分科会	開催日時、場所、サブテーマ
第1 温暖化防止	開催日時：平成17年9月10日〔土〕 午前10時～午後4時 場 所：千葉大学西千葉地区総合校舎 サブテーマ：行動を！ ひとりひとりがエコライフ
第2 ごみ問題	開催日時：平成17年9月11日〔日〕 午後1時～午後5時 場 所：日本大学生産工学部津田沼キャンパス サブテーマ：PET ボトル物語 便利だけど・・・
第3 里山、湿地、川	開催日時：平成17年9月9日〔金〕 場 所：千葉大学西千葉地区総合校舎 サブテーマ：自然との共生？ 私達が活動を続けていくために
第4 環境教育	開催日時：平成17年9月24・25日〔土・日〕 場 所：千葉県立手賀の丘少年自然の家 サブテーマ：「もったいない」からの温暖化防止 地球をさます千葉の人材づくり、教材づくり
第5 環境保全	開催日時：平成17年10月1日〔土〕 午前10時～午後4時 場 所：日本大学生産工学部津田沼キャンパス サブテーマ：聞いてみて学ぼう、そして行動を

親子で・お友達と、夏休みの自由研究に・・・と、印旛沼博士をめざしませんか！

印旛沼をきれいにする活動

みて！・・・・・・・・・・印旛沼を屋形船に乗ってよく見てみよう！

さわって！・感じて！・・・川の学校開催

(印旛沼流域の川で、水調べ・生き物調べ・ごみ拾いなど)

考えて！・・・・・・・・・・ どうすれば印旛沼の水はきれいになるのかな？

印旛沼は、飲み水として使われている湖や沼の中で、ワースト1の水質です。

「環境パートナーシップちば」は、このことをみんなに知ってもらうために、印旛沼を見て・さわって・感じて・考えてと、16年度の事業として、活動しました。

17年度も引き続き、印旛沼流域で地域の小・中学生の親子を対象に、生き物調べ・ごみ拾いなど体験する「川の学校」を体験して、印旛沼をきれいにする活動を展開します。

また、次世代を担う子どもたちと一緒に継続的に環境の再生・保全に勤め環境学習プログラムを作成します。

活動のながれ

A. 「印旛沼をよく見て見よう」～印旛沼舟体験～

7月24日(日)

「屋形船に乗って印旛沼を見てみよう」

時間：午前10時～12時

場所：印旛沼(佐倉ふるさと広場集合)

募集人数：40名(小・中学生を主に募集)

参加費：100円(保険代)

これらの活動は、環境活動団体、当会会報「だより」など掲載し発信します。また、「エコメッセちば」や「環境シンポジウム千葉会議」、「印旛沼わいわい会議」各市町村の環境イベントなどに参画・協力・発表します。

B. 「夏休みおやこ体験活動」～印旛沼流域で展開

活動できる日を参加者で決めていただきます。

〔手繰り川〕

〔神崎川〕

〔二重川〕

〔鹿島川〕

〔印旛沼〕

参加体験グループ
募集中です。

ここだけ決定！

〔桑納川・新川流域〕

7月25日(月)

「八千代市の川の水調べ」

時間：午前9時～12時

場所：花輪川・桑納川・新川

参加費：100円(保険代)

C. 「報告会」～「印旛沼をきれいにする活動」を皆で振り返りましょう！

日時：10月9日(日)

会場：志津コミュニティセンター(予定)

主催：環境パートナーシップちば

お問い合わせ(申し込み)：

環パちば 桑波田(くわはた)

TEL/FAX：043-258-5437

E-mail：kuwahatak@hotmail.com

D. 「第2回印旛沼流域フォーラム」

日時：2月19日(日)予定

会場：志津コミュニティセンター(予定)

エコメッセちば2005出展者募集！

日時：2005年9月18日(日)10:00～16:00

「エコメッセちば」は今年で10回目となります。その間、市民活動団体・企業・行政などから多大なご支援をいただきながら、これに賛同する市民・企業・行政などの代表者からなる実行委員会を設けて、行事の企画・運営を行って来ました。昨年のエコメッセちば2004は会場を屋外から室内に移し「県とNPOとの協働事業」として実施され、ちょうど幕張メッセで「恐竜博」が開催されているときでもあり9000人近い参加者がありました。

今年も展示場では「ゲームショー」が開催されており多くの来場者が見込まれます。環境活動・環境事業の紹介、エコ商品の販売、製品展示、学校等における取り組みなど、出展参加を募集しています。特に、子どもたちのための楽しく学べる体験型のプログラムをご提供ください。子どもたちの環境学習の参考になる環境情報を分かりやすく解説したものや、環境保全や環境問題解決のための具体的な活動例のご紹介をお願いします。

主催:エコメッセちば2005実行委員会(加藤賢三 実行委員長)

場所:幕張メッセ 国際会議場

参加費:市民活動団体は1区画につき5,000円、企業は1区画につき10,000円

(展示のみ・物販を含む展示)机180×60cm1台、椅子2脚付き

広さ:1区画 2.0m×2.0m(複数区画の申し込み可)

募集区画:250区画(申込みは6月7日(月)まで)

問い合わせ:「エコメッセちば2005」実行委員会事務局

電話 080-1152-6538 FAX 043-246-6969

E-mailの場合: info@ecomessechiba.jp ホームページ: <http://ecomessechiba.jp>

併せて、実行委員・当日スタッフ・協賛・市民スポンサーも募集中です。

4 月

日時 平成17年4月13日(水)

場所 船橋フェイス

17年度の主な活動について

印旛沼をきれいにする活動(4回)

アダプト制に関わる調査等報告書作成

環境パートナーシップに関わる意見交換会

環境シンポジウム2004

エコメッセ

里山シンポジウム

エコサロン

千葉大利用者会議に参加

再生行動会議にパネル参加

平成16年度事業報告・会計報告

広報活動の取組

主に「だより」の発行を中心に検討。

HPを充実させることで進める。

総会関連役割分担・打ち合わせ

5月度運営会議・エコサロンについて

運営会議 : 5月18日(水)午後3時~

エコサロン: 同 午後6時30分~

平成17年度の助成金等

現時点で、ベイエフエル30万円、環境再生基金20万円、印旛沼再生基金4万円、合計54万円。

千葉市環境フェア2005年

6月3日(金)環境の日(パルコ5F)

「環境パートナーシップちば」として参加する。

(展示発表)

5 月

日時 : 平成17年5月18日(水)

場所 : 船橋市女性センター

報告

・総会参加申し込み状況報告

環境学習の発表者について

審議事項

1)平成16年度事業報告

・17年度事業計画(加藤氏担当)

2)会計報告

・16年度収支決算書の報告。

5月11日(水)船橋フェイスにて、会計監査終了。

3 総会準備
についての
役割分担な
ど

6 月

日時:6月21日(火)

場所:船橋フェイス

報告

・里山シンポジウム・全体会は、5月21日開催された

・17年度環パ総会は5月28日開催された。

・ちばし環境フェスティバルは、6月3日(金)開催され、環パはパネル展示で参加した。

・船橋市環境フェア は、6月11日開催され、環境パートナーシップちば・ふなばしで参加。

・エコメッセちば2005は、9月18日(日)開催に向けて、活動中。

・環境シンポジウム2005は、分科会、全体会開催に向け活動中。

・16年度に開催された「印旛沼にかかわる市民・NPO意見交換会」は、「印旛沼わいわい会議」と名称を変更し、17年度も開催される。

協議

17年度事業計画

印旛沼をきれいにする活動について

「だより」43号の進捗状況

「だより」44号の内容は、次回の運営委員会の継続

審議

エコサロン(パートナーシップエコサロン)

平山氏の環境教育について

その他

・環境パートナーシップとしての参加などについては、運営委員会で協議する、参加表明の期限が間に合わない時は、運営委員にメールで発信する。

総務部より
運営委員会

お知らせコーナ

エコサロン

テーマ：「環境教育私論」

講師：平山明彦 氏

(NPO法人市原ネイチャークラブ)

日時：7月29日(金) 6時半～8時半

場所：船橋女性センター

参加費：500円(資料代)

申し込み：事業部 中岡

FAX：047-385-8950

e-mail naka.hta@trust.ocn.jp

広がれ！割箸リサイクル

日時：7月10日(日) 午後1時～4時

第1部・「割り箸を資源として使う取り組み」

第2部・各種発表(事例・情報・提案など)

第3部・ワークショップ

* パネルや割り箸芸術品などの展示もあり*

場所：千葉ポートアリーナ研修室

参加費：300円

問合せ・申込み：

NPO法人ちば環境情報センター

TEL&FAX：043-223-7807

第5回 めざせ!ごみゼロ交流会

日時：7月31日(日)

13:30～16:30 13時開場・受付

場所：千葉市市民会館 4階 第4会議室

(JR千葉駅より徒歩7分)

参加費：300円

主催：GONET(ごみゼロネットちば21)

参加申し込み・問い合わせ：

TEL&FAX：043-271-9129

携帯：070-6631-8277 担当 伊原

「再転車活用委員会」「まちネット・ふなばし」

「NPO法人せっけんの街」「環境世紀研究会」

「株式会社共進」「東京ボード工業株式会社」が、

ごみやりサイクルの視点から、それぞれの工夫や

取り組みを紹介。

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団 環境管理グループ
環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

全国地下水サミット 2005

水環境の保全に積極的に取り組んでいる全国の自治体、NPO 団体などと共に、「人間の生命維持のための水、健康にやさしい水の確保」をいかにすべきか、水環境の視点に立ち、地下水を中心にさまざまな観点から討議し、水資源の確保と保全の大切さを全国に発信することを趣旨としています。

日程及び会場

9月30日 千葉商科大学大ホール(市川市国府台)

基調講演・首長討論会・懇親会

10月1日 かずさアカデミアホール(木更津市)

自噴井見学会・講演会・討論分科会・懇親会

10月2日 袖ヶ浦市郷土博物館(袖ヶ浦市)

上総掘り体験学習・上総掘り実機見学会

問合せ先：市川市環境保全課

電話：047-320-3977 FAX:047-379-0206

環境公開講座開催のご案内

日時：7月23日(土) 午前10時～12時

場所：千葉市民会館 第1&2会議室

テーマ：「水を貯える、水を育む」

(水環境における涵養機能の変化)

講師：千葉大学理学部教授 理学博士 佐倉保夫先生

(日本地下水学会会長、手賀沼水循環回復行動推進会議会長)

主催 NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会

良好な水環境を常に保持するには「水の循環系」に配慮することがきわめて重要です。佐倉教授は日本地下水学会会長及び手賀沼水循環回復行動推進会議会長等広く活躍されている、この道の第一人者です。また、「全国地下水サミット2005」でも中心的な役割を果たされています。多数の方々のご参加をお待ちしております。

参加費：500円(資料代) 定員：60名

申込先：NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会

FAX 0438-63-6851 E-mail: pxz04373@nifty.ne.jp

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP: www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

千葉県環境財団環境管理グループ環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		

